志木中だより

学校教育目標
・考える人
・思いやりのある人
・たくましい人

１０月号　　平成２６年１０月１日

志木市立志木中学校
志木市柏町 3-2-2　　℡048-471-0143　　URL http://www.shikichu.ed.jp/

論語読みの薦め

校長　　齋藤　亨

「論語」が静かな「ブーム」児童向け書籍珍しいヒット

という見出しが５年ほど前のインターネットのニュースに載っていました。

『孔子が説く「論語」が見直されている。子どもを対象にした素読会が盛況を見せ、児童向けに編んだ書籍がジャンルの中では珍しいヒット作となっている。両親が思いやりのある子どもに育てようと買い与える、という例が多いようだが、自分が読み入ってしまう人も少なくない。』というような内容でした。

その中で、編集者の話として、『論語』がブームになっているのは「昔はおじいちゃん、おばあちゃんが生き方を示してくれたものでした。今では、少なくなってしまって。そんなこともあって、思いやりの心を育てたいと、両親が子どもに買い与えるみたいです」と分析をしていました。

時代劇で江戸時代の寺子屋の様子などが描かれると、習字をしているか論語の素読をしている様子が映し出されることがよくあります。

小さな子供が『子曰わく、～』と論語を読んでもその意味はわからずに読んでいるのだと思います。しかし、この文が頭の中に入っているといつかその意味を理解し、考えて人としての生き方を身につけていったのではないでしょうか。

前出の編集者の話「昔はおじいちゃん・・」はこのようにして身に着いた人としての生き方が日本人の中に脈々と続いていたのだと思います。

ところが、時代は先行きますます不透明となり、価値観が多様化し、効率が優先される時代となっています。また、諸外国の素晴らしいところをどんどん取り入れた結果、義務や責任の伴わない権利意識が浸透して住みにくくなっているように思います。多少のことは笑って済ませ、何か起これはそれは自分が悪かったからだ、そして、困っていれば助け合う。『自らを強く主張せず、慎みを知っているがやるべきことはやる。』という日本人の美徳とされていたことが「積極性がない」「笑って誤魔化す」などと悪く取られ、他人に対しての寛容さがなくなってしまったようです。

電気製品一つを買ってきても、責任を逃れるための注意書きが何ページにもわたって書かれている取扱説明書には驚かされます。

このような時代だからこそ、論語がブームになっているのもうなずけます。これまで忘れられがちだった『心』が今見直されているように思います。

論語は『心の栄養』と言われています。読んですぐに役に立つというわけではなく、いつか役に立つものだからです。内容が普遍的なので子供にとってこの考えが身についていることは生涯を通じての大きな宝物になるのではないでしょうか。

栃木県足利学校で購入できる小中学生向けの論語の本です。

1 冊 100 円と 150 円価格は安いですが中身は確かです。